

NEWSLETTER

No.62

6 January 2016

・2015年地理学教室の行事記録	・・・・・・1
・第15回地理ワークショップの開催	・・・・・・2
・2015年度国土館大学地理学会夏季巡検（富山巡検）報告	・・・・・・3
・2015年度地理実習の記録	・・・・・・5
・卒業論文公開口頭試験について	・・・・・・9
・2015年度卒業論文公開口頭試験日程	・・・・10
・国土館大学地理学会費の納入について	・・・・12

【2015年地理学教室の行事記録】

1月11日	世田谷の歴史地理巡検（岡島）
2月 5日～ 7日	2014年度卒業論文公開口頭試験
2月11日	国土館大学地理学会冬季巡検 横浜巡検（加藤）
3月19日	学位記授与式
5月 3日～ 5日	福島農村実習（宮地）
5月 9日	日本の土壌環境 巡検（等々力溪谷：前杵・磯谷）
5月10日	野外生物観察会（生田緑地：磯谷）
5月20日～21日	地理学野外実習A（1年生実習，川崎市麻生区黒川地区：専任教員全員）
6月 6日	日本の土壌環境 巡検（荒川と下町低地：前杵・磯谷）
6月13日	国土館大学地理学会（MCH大ホール）
	<総会>
	<講演会>前杵英明先生（法政大学・本学非常勤講師） 「インダス文明と自然環境」
	<懇親会>34号館地下食堂
7月 9日	食と農の地理学 築地市場巡検（宮地）
7月26日	第15回地理ワークショップ（MCH 5階 会議室） 参加者22名 <テーマ>「地図でみる・学ぶ世田谷」（講師：野々村邦夫，長谷川 均）
7月31日～8月 2日	宮地ゼミ学外実習（河口湖方面：宮地）
8月 7日	江戸東京の歴史地理巡検（東京都心とその周辺：岡島）
8月16日～23日	長谷川ゼミ学外実習（沖縄本島：長谷川・中井）
9月 1日～ 3日	国土館大学地理学会巡検（富山県とその周辺：岡島・磯谷） 学生参加者6名
10月 6日～ 7日	地理学野外実習B（2年生実習：専任教員全員）
10月19日～22日	地理学野外実習C（3年生実習：専任教員全員）
12月19日	国土館大学地理学会（34号館B304教室） <研究発表会>佐藤宏昭，前原翔吾，大塚憲司，宇都宮和彦・宮野涼太・諸橋夏海・吉岡大貴，菅原孝太，鈴木岳美・清水駿悟・樋口達也 <講演会>野口泰生先生（国土館大）「霧ヶ峰の気候景観」 <懇親会>1号館1階学生ラウンジ

【第15回地理ワークショップの開催】

テーマ：「地図でみる・学ぶ世田谷」

地理・環境専攻では、大学の研究成果や教育の成果を社会・教育界へ還元するという主旨で、2001年度より「地理ワークショップ」を開催してきました。15回目となった2015年度は、これまでの中学や高等学校の教員の方々への募集とともに、本格的に一般の方（教員以外）の参加を募集するため、世田谷区教育委員会の後援をもらい世田谷区民へ参加を呼びかけました。

テーマは、「地図でみる・学ぶ世田谷」でした。担当講師は、野々村邦夫（日本地図センター）、長谷川均（専攻スタッフ）のお二人の先生でした。2つの講義のなかでは、新旧の地形図、日本地図センターからご提供いただいた「地図中心」も資料にしながら、地形図の読図作業も行われました。参加者数は22名（内、世田谷区民2名）でした。参加者へのアンケートをもとに、来年度以降の開催方法等については教室内でこれから話し合っていく予定です。末筆ながら、今回の地理ワークショップの後援をいただいた世田谷区教育委員会にも記してお礼申し上げます。

（宮地忠幸）

◎プログラム

◆7月26日（日）

地形図片手に世田谷バーチャル散歩・・・・・・・・・・野々村邦夫
今昔地形図でみる世田谷の移り変わり・・・・・・・・・・長谷川均



写真1. 野々村先生の講義の様子



写真2. 熱心に地形図を読む参加者の皆さん



写真3. 旧版の地形図を活用した読図作業



写真4. 長谷川先生の講義の様子

【2015年度 国土館大学地理学会夏季巡検（富山巡検）報告】

2015年9月1日から3日の2泊3日で、国土館大学地理学会の夏季巡検が富山県にて実施されました（図1）。参加学生は6人（1年3名、3年3名）でした。引率は、磯谷達宏先生と岡島建先生にお願いしました。

2015年度 国土館大学地理学会 夏季巡検行程表	
●行先	富山県富山市、高岡市、南砺市、黒部市
●期間	2015年9月1日（火）～9月3日（木） ≪2泊3日≫
●テーマ	「衣食住の観点から見た北陸地方の振興と発展」
●行程	（移手段 電車—— 路線バス—— 徒歩—— 水上バス——）
◆1日目 2015年9月1日（火）	
富山駅 9:40Dep. ——— 9:55Arv. 富山市役所展望塔 10:25Dep. ——— 10:50Arv. 国際会議場前駅 10:54Dep. ——— 11:14Arv. 富山駅 11:23Dep. ——— 11:41Arv. 高岡駅(昼食) 13:00Dep. ——— 14:33Arv. 菅沼 16:31Dep. ——— 16:45Arv. 相倉口 合掌造りの宿 勇助	
■集合…9:40 富山駅改札前	
■宿泊先…合掌造りの宿 勇助 富山県南砺市相倉591	
◆2日目 2015年9月2日（水）	
7:45Dep. ——— 8:15Arv. 城端駅 9:50Dep. ——— 11:05Arv. 富山駅(昼食) 12:30Dep. ——— 12:50Arv. 環水公園 13:20Dep. ——— 14:20Arv. 岩瀬カナル会館 14:20Dep. ——— 廻船問屋見学 ——— 15:40Arv. 東岩瀬駅 15:48Dep. ——— 16:10Arv. 富山駅 16:36Dep. ——— 17:03Arv. 高岡 駅 17:03Dep. ——— 17:25Arv. 角久旅館	
■宿泊先…角久旅館 富山県高岡市大手町12-11	
◆3日目 2015年9月3日（木）	
角久旅館 9:10Dep. ——— 9:10Arv. 高岡大仏 9:20Dep. ——— 9:30Arv. 土蔵造りの家 「菅野家住宅」10:25Dep. ——— 10:40Arv. 高岡駅 10:48Dep. ——— 11:55Arv. 生地駅 11:55Dep. ——— 12:30Arv. 生地漁港(昼食) 14:00Arv. ——— 14:25Arv. YKKセンターパーク 15:40Dep. ——— 16:04Arv. 生地駅 16:14Dep. ——— 17:02Arv. 糸魚川駅	
■解散…糸魚川駅	

図1 富山巡検の行程

巡検1日目は、富山駅に集合した後、富山市役所展望塔へ行きました。その後、富山城址公園などを散策した後（図1、2参照）、低床路面電車のセントラムに乗って富山駅まで行き、高岡駅から菅沼合掌造り集落へバスで向かいました。

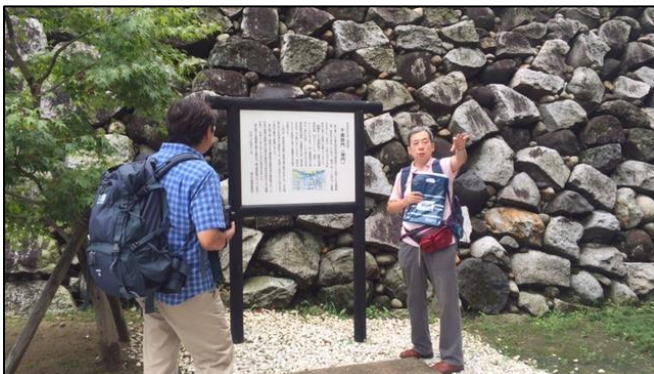


写真1. 富山城址公園で説明する岡島先生



写真2. セントラムに乗車（磯谷先生撮影）

菅沼合掌造り集落は、世界文化遺産であるとともに国指定史跡であり、重要伝統的建造物群保存地区となっています。ここで私たちは、塩硝の館や五箇山民俗館という2つの資料館において、かつてこの村で養蚕や塩硝づくり（江戸時代加賀藩の支配下にあった五箇山の幕府の目が届かない秘境で300年以上続いた塩硝製造）が行われてきたこと、地域の自然環境の中で冬の寒さや夏の暑さをしのぐ独自の合掌造り家屋の構造

を学びながら、五箇山の山村の伝統的な暮らしの姿を学びました。その後、宿泊先である相倉合掌造り集落(写真3)へ行きました。相倉合掌造り集落もまた、菅沼合掌造り集落と同じく世界文化遺産に登録されています。宿泊した合掌造りの宿・勇助は、2階に養蚕に用いた道具や、様々な生活用品などが展示してあり、見学もさせていただきました。

写真3. 相倉合掌造り集落(世界文化遺産) →



巡検2日目は、相倉合掌造り集落を出発し、まず初めに城端駅周辺を歩きながら(写真4)、砺波平野の扇状地や散居集落を見学しました(写真5)。地理の教科書等にもよく載っている屋敷林に囲まれた家屋を、実際に目で見る事が出来ました。富山駅での昼食をはんだ後、富岩水上ラインで運河クルーズをしました。この運河クルーズは、富岩運河環水公園から岩瀬カナル会館までの片道約1時間のコースで、運河の歴史や水辺の生態についてのガイドを聞きながら運河を下ります。運河の途中には「水のエレベーター」と称される国指定重要文化財の中島閘門があり、ここの水位差は日本最大級の2.5mにもなります。乗船した便は「おわら周遊便」でしたので、情緒ある胡弓の音を聴きながらのクルーズとなりました。その後、大町新川町通りを歩きながら、国指定重要文化財に指定されている森家をはじめとした廻船問屋群のある町並みを見学しました。LRT(次世代型路面電車システム)のライトレールで富山駅まで戻り、そこから宿泊先である角久旅館(高岡市)へ向かいました。



写真4. 城端駅周辺の農村景観



写真5. 砺波平野の散居村景観

巡検最終日である3日目は、宿泊先の角久旅館を出発し、旅館の目の前にある高岡大仏を見学した後、歩きながら歴史都市である高岡の町並みを巡りながら、重要文化財である土蔵造りの家「菅野家住宅」を見学しました(写真6)。ここでは、細部の華やかな装飾の特徴や防火に配慮した家屋構造について説明を受けました。あいの風とやま鉄道で生地駅まで向かい、生地漁港で昼食休憩をとってから、最後の見学先であるYKKセンターパーク(写真7)へ向かいました。富山県に立地する大企業であるYKKのセンターパークは、世界70ヶ国で事業を展開しているYKKグループの技術拠点施設となっています。ファスナーや窓を中心にYKKの技術や歴史、環境への取り組みについての展示がされていて、事業の特徴と変遷について学びました。その後、糸魚川駅まで移動し、今回の巡検は解散となりました。



写真6. 菅野家住宅の外観



写真7. YKKセンターパーク前で(磯谷先生撮影)

3日間の巡検を通して、私たちは世界遺産や重要伝統的建造物、重要文化財など歴史的建造物を数多く見学し、人々が暮らしのなかで培ってきた知恵とそこから生まれた建物のつくりや暮らし方、人間生活を取り巻く自然について学ぶことができました。普段私たちが生活している東京とは異なる生活様式、文化を感じることができて、新鮮な気持ちで見学ができました。とても貴重な学びになったと思っています。

文責：長谷川彩香

【2015 年度地理実習の記録】

地理学野外実習 A : 5 月 20 日 (水) ~ 5 月 21 日 (木) 実施

◎野口・長谷川・内田・岡島・磯谷・宮地

実施地 : 川崎市麻生区黒川地区

参加学生数 : 86 名 (男子 75 名, 女子 11 名)

テーマ : 丘陵地の自然環境と人間生活

—映画「となりのトトロ」に描かれた丘陵地の自然環境と人間生活を参考に—

目的 : 多摩地区における丘陵地の土地利用に関する調査を行い, 地形と土地利用の関係, 都市化・宅地化の進行の特徴やその要因等について考察することを通じて, 地理調査や地理的思考法の基本を体得する.

課題 : 図表を含めて 400 字詰め原稿 10 枚以上相当のレポート.
提出日時 ...7 月 21 日 (火) 5 限「地域調査法」の授業時



写真 1. 現地調査を前に班ごとで打ち合わせ



写真 2. 初夏の良い天気の中, 土地利用調査を実施



写真 3. 農園利用者にヒアリングをする学生たち



写真 4. ビオトープの案内もいただきました



写真 5. 2 日目の午後・野口先生の講義



写真 6. まとめの授業を聞く学生たち

地理学野外実習B（2年生対象）：10月6日（火）～10月7日（水）実施

◎野口

実施地：長野県霧ヶ峰高原

参加学生数：3名（男子2名，女子1名）

テーマ：霧ヶ峰（1,925m）高原を例に，本州亜高山帯における自然環境を理解する。

内容：1) 霧ヶ峰高原の気候学的位置づけと生態系に注目する。「風と地形→積雪と凍結融解→植生分布」の関係を学ぶ。
2) 霧ヶ峰と人的関わり（縄文時代から今日まで）黒曜石の採取（縄文時代），狩場（鎌倉時代），牧草の採草地（江戸時代以降），スキー場，警察犬訓練，ハイキング，別荘としての利用。
3) 観測ルートについて標高断面図の作成。

課題：文献，実習資料，現地での説明をもとに，霧ヶ峰の植生分布に影響を与える地形・気候・人間活動の役割，観測ルートの標高断面図についてレポートにまとめる。事前の課題もレポートに含める。



野口班：霧ヶ峰の獣害対策の柵前で

◎長谷川

実施地：神奈川県三浦市周辺（三浦半島南部と城ヶ島）

参加学生数：13名（男子13名）

テーマ：この地域の特徴である海岸地形や地質を学ぶ

内容：この地域にみられる砂浜海岸や岩石海岸、関東大震災の際に隆起した海食台にみられる地形の観察方法を学んだ。また、海食台や岩石海岸で観察される特徴ある堆積構造、火山灰を観察した。この調査を通して砂浜海岸、岩石海岸のみかたを学んだ。

課題：調査結果に基づいて，A4版20～30枚のレポートの作成。



長谷川班：城ヶ島にて海岸地形の調査中

◎内田

実施地：長野県上田市、長野市松代地区

参加学生数：9名（男子6名，女子3名）

テーマ：観光地の調査と観光地に与えられた意味の解説

内容：①上田・松代・別所温泉の歴史観光スポットにある伝統的建造物の状態と利用状況について調査する。
②「真田氏」のイメージが，上田・松代において，観光資源としてどのように利用されているかを調査し，人文主義地理学的手法を用いて考察する。

課題：レポート3本：「別所温泉・松代における伝統的建造物の分布と特徴について」と「上田・別所温泉・松代の風景美について」と「観光地の記号としての「真田氏」あるいは「コンテンツ・ツーリズム」の意味」



内田班：長野市松代，旧松代駅前にて

◎岡島

実施地：長野県東御市(旧海野宿)・軽井沢町・群馬県安中市（旧中山道・旧碓氷峠鉄道施設）

参加学生数：12名（男子10名，女子2名）

テーマ：上信地方における交通路・交通集落の歴史の変遷

内容：海野宿重要伝統的建造物群保存地区における町並み調査。旧軽井沢駅記念館の見学，旧中山道碓氷峠越えを踏破した後，碓氷峠鉄道施設の見学。



岡島班：旧海野宿の歴史的町並み見学

課題：標記のテーマについて所定の分量のレポート作成する。なお夏休みに事前学習を行っている。

◎磯谷

実施地：長野県蓼科方面

参加学生数：9名（男子8名，女子1名）

テーマ：山地帯～亜高山帯の植生

内容：茅野市内から縞枯山にかけての地域でみられる植生について，組成・構造・動態・立地などの視点から調査した。

課題：指示された項目にしたがって，この地域の植生について図表を含めてA4版20枚程度のレポートにまとめる。



磯谷班：分布上限に近いミズナラ林を観察中

◎宮地

実施地：群馬県川場村

参加学生数：12名（男子7名，女子5名）

テーマ：農村における地域資源を活用した特産品づくり

内容：農村振興策の一つとして位置づけられる特産品開発の実態を調査した。とくに，近年の川場村で取り込まれているリンゴやブルーベリーなどの果実を使った特産品開発（ジュース，ドレッシング，菓子類）の実態を，村役場，農業生産者，加工品製造業者，地元の直売店等でヒアリング調査した。

課題：現地での調査結果をもとに，図表を含めA4版12枚以上のレポートにまとめる。



宮地班：農家の方へのヒアリング

地理学野外実習C（3年生対象）：10月19日（月）～22日（木）実施

◎野口

実施地：石川県金沢市とその周辺地域

参加学生数：6名（男子5名，女子1名）

テーマ：北陸地方の冬の南風について

内容：①日本海側（多雪地帯）に見られる気候景観を観察する。

②北陸地方（福井，石川，富山，新潟の各県）における風の諸特性について理解する。

③気温観測と補正について学ぶ。

課題：事前の課題および上記内容③についてのレポートを作成する。



野口ゼミ：金沢市内の宿泊先で

◎長谷川

実施地：千葉県南房総市（旧千倉町周辺）

参加学生数：9名（男子9名）

テーマ：班ごとにテーマを設定し，現地調査を行う。

内容：海岸地形班，火山地形班，防災GIS班，リモートセンシング班の4グループに分かれて，観察および調査を行う。

課題：現地で得たデータをもとに，A4版30枚程度のレポートを作成するとともに，A0版のポスターを作成する。



長谷川ゼミ：調査を終えてゼミ生全員で記念撮影

◎内田

実施地：愛媛県松山市およびその周辺地域

参加学生数：15名（男子15名）

テーマ：学生各自でテーマを設定し、現地調査を行う。

内容：紀行文や映画などからみる「伊予の小京都」大洲のイメージ、地方都市圏郊外における居住者の特性—松山市湯の山地区の事例—、道後温泉活性化基本計画による観光客への影響、文学の街松山市における観光イメージ形成—「坊ちゃん」を事例に—、スマートフォンなどのメディアを用いた観光行動の実態、愛媛県砥部町における観光地の形成、観光客の観光選択の特性—松山市と今治市の比較—、愛媛県内子町における観光地としての変化、など

課題：各自設定したテーマにしたがって、現地で得たデータをもとに分析・考察を行う。



内田ゼミ：松山の繁華街・大街道で

◎岡島

実施地：仙台市および周辺地域

参加学生数：11名（男子9名、女子2名）

テーマ：歴史地理学・都市地理学等に関する地域調査

内容例：仙台城下町の歴史の変遷、仙台城下町の近代における発展、重要伝統的建造物群保存地区に対する意識、仙台空港線開業前後の地域変遷、仙台バイパスの開通と周辺の土地利用、泉パークタウンの形成過程と発展要因、東北本線利府支線の現状と課題、仙台駅東土地区画整理事業地区の土地利用変遷、折立地区における住民の移動選択手段と評価

課題：各自のテーマに従ってレポート作成。



岡島ゼミ：東日本大震災で被災した仙石線(旧)野蒜駅を見学

◎磯谷

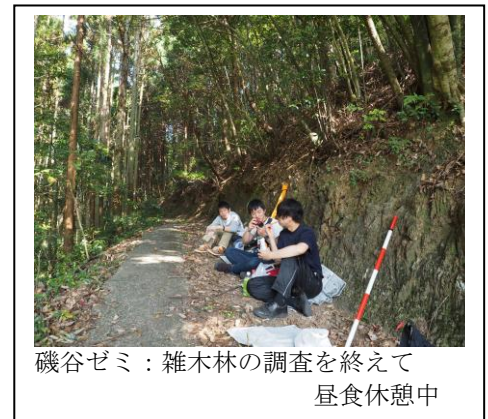
実施地：徳島県阿南市とその周辺地域

参加学生数：7名（男子7名）

テーマ：徳島県南東部の生態地理

内容：徳島県南東部でみられる動植物の生態地理について、各自が事前にテーマを設定して調査した。具体的に選ばれたテーマは、「二次林の樹種構成—とくに沿海部と内陸部との違いに着目して—」「マツ個体群の分布・活力度とその生育環境」「中大型哺乳動物の分布および被害状況と対策」および「河辺性鳥類群集の分布とその生息環境」であった。

課題：図表を含めてA4版30枚程度のレポートにまとめる。



磯谷ゼミ：雑木林の調査を終えて
昼食休憩中

◎宮地

実施地：長崎県島原半島

参加学生数：16名（男子10名、女子6名）

テーマ：班ごとに設定したテーマにもとづいて現地調査を行う。

内容：①特産品班：地場産農産物を活用した特産品開発の実態とその地域経済効果、②ツーリズム班：体験型ツーリズムの地域効果、③ジオパーク班：ジオパーク認定が地域に与えた影響、④災害復興班：火山災害からの復旧・復興事業の展開と住民生活、をテーマに現地調査を行った。

課題：班ごとにA4版25枚以上（図表含む）のレポートにまとめる。



宮地ゼミ：雲仙普賢岳（平成新山）をバックに記念撮影

【卒業論文公開口頭試験について】

地理学教室では、卒業論文の審査が公平になされるよう各々の論文を2名の教員が閲読し、さらに公開口頭試験の結果を加味して合否を決めています。今年度も下記の通り、卒業論文の口頭試験が行われ、試験の結果から卒論の評点が決まります。試験は、持ち時間9分の口頭発表とそれに続く質疑応答です。発表者はあらかじめ卒論の要旨、図表などをまとめたレジュメを用意し、出席者に配布できるよう準備してください。また、質疑応答の際に必要な卒業論文のコピー、その他卒論作成に使用した資料や参考文献のコピーなどは、必ず持参してください（公開口頭試験の際に提示を求められる場合があります）。これらは卒論の合否が決まるまで処分しないこと。

就職が決まり、試験当日に社内研修などが予定されている4年生は、就職予定先に事情を説明し、研修欠席の手続きを済ませておくようにしてください。

なお評価の結果、優秀な卒論2編は、全国地理学専攻卒論発表大会（2016年3月中旬・東京学芸大学）で発表してもらうこととなります。発表者は、2月8日中に決定し、すぐに通知します。

日 時：2016年2月6日（土）、8日（月） 9：30～
2月9日（火） 12：50～
場 所：世田谷校舎 10号館2階 10204教室（階段教室）

注意事項（4年生はよく読んでおくこと）：

※ 試験時間は、1人18分（発表9分、質疑応答9分）である。発表者は発表用原稿を必ず用意し、あらかじめ発表の練習をしておくこと。発表の内容はもちろん、発表の手際や発表の態度なども審査の対象となる。なお、発表時は予鈴7分、本鈴9分の合図があります。

※ 発表に際しては、かならず以下の要領でレジュメを用意しておくこと。レジュメはワープロによって作成することが望ましい。

1. レジュメは、論文題目、氏名、論文の要旨（目的・方法・結果を書く。字数が多くなりすぎないように、計800字程度を目安にするとよい）、説明に使用する図表によって構成する。
2. レジュメの枚数は、A3サイズで2枚横書き（図表を含む）とし、各自40部ずつ用意する（自費でコピー：図表がカラーでないと判別しにくい場合はカラーコピーをするか、口頭試験用に図表を白黒で描き直すこと）。
3. レジュメは、発表者交代の合間に次の発表者が配るものとする。その際、まず教員に配ること。
4. レジュメの文章を、そのまま読むような発表は控えること。口頭試験の発表用原稿を別に用意することが望ましい。

※ 発表では、PCプロジェクター等も使用できる。使用希望者は事前に専攻主任（磯谷）またはゼミ担当教員に申し出ること。なお、PCプロジェクターを使う場合、原則としてノートPCは各自で用意すること。また、ディスプレイの設定等が必要なため、PCのマニュアルをよく読んで設定方法を確認し、発表までに動作確認等しておくこと。PCプロジェクター使用の場合、接続切り替え等に時間を取られすぎないように、前後の発表の人の使用を確認し、機器を一時的に借りる（同じPCを使用する）などの工夫も心掛けること。

※ 地域調査士の資格取得へ向けて、昨年からの審査前事前請求制度が始まり、3月中に認定証を受け取ることができるようになりました。 資格取得希望者は、1月末（以降）に日本地理学会資格専門委員会から郵送される書類を熟読し、同封されている申請書に必要な事項をすべて記入し（顔写真も必要）明記のうえ、口頭試験日程期間中に主査へ提出すること。その後、副査が記名・押印し、一括して返却する。この機会をのがすと「地域調査士認定委員会が指名する者の認定」が面倒なことになるので、卒業予定者は必ずこの機会に行うこと。

※ 3年生は卒論作成の参考のため、また来年の口頭試験のためにも、全員出席し、大半の発表を聞くようにすること。1, 2年生もできるかぎり1日以上出席すること。 2年生にとっては3年以降の専門分野（ゼミ）の選択する上で、もっとも参考になる行事なので、できる限り多くの発表を聞くことが自分のためにもなります。

※次ページは、口頭試験のプログラムです。

【卒業論文公開口頭試験日程】

番号	氏名	題目	主査	副査
第1日目：2月6日（土）				
9：30～10：30 <進行：磯谷>				
1	田口 翼	風向の日変化と日照時間との関係について －富士市の冬を例に－	野口	長谷川
2	清水 耕作	ギャンブル施設が近隣住民に及ぼす影響 －東京都府中市東京競馬場を事例に－	内田	野口
3	水越 恭輔	神奈川県厚木市における厚木シロコロホルモン取扱店の 分布と偏り	内田	岡島
11：00～12：00 <進行：内田>				
5	山田 拓也	スキー観光地における宿泊施設の変容 －群馬県片品村丸沼高原地区を事例に－	内田	岡島
6	堀米 諄也	そばを活かした地域活性化 －茨城県常陸太田市を事例に－	宮地	野口
7	小坂 祐貴	地方鉄道の現状と課題 －三岐鉄道三岐線を事例に－	岡島	宮地
12：50～15：25 <進行：長谷川>				
8	醍醐 万純	近代日本における鉄道網の形成過程 －新潟県を事例に－	岡島	長谷川
9	王 磊	中国湘江中流域の人間活動が水環境に与える影響 －衡陽市都市化と農業開発を例として－	長谷川	磯谷
11	高中 亮	岐阜県北西部におけるイノシシの分布 および獣害の実態とその対策	磯谷	宮地
12	中根 敏江	飼料用米生産における普及の地域性と地域農業における意義 －栃木県鹿沼市を事例に－	宮地	内田
14	須齋 洋平	風向、風速から見た豊岡市の冬季の風の特徴	野口	磯谷
16	根本 崇弘	静岡県袋井市における温室メロンのブランド化による 産地維持	宮地	野口
17	小澤 佳奈	山梨県における清酒製造業の実態	宮地	野口
18	橋本 将実	高度経済成長期以降の町並みの変遷	岡島	野口
15：40～17：40 <進行：岡島>				
21	吉岡 康平	沖縄県北部の東海岸域における海草・ホンダワラ藻場の 長期変動について	長谷川	磯谷
22	大場 靖久	つくばエクスプレス開業に伴う既存路線の現状と課題 －流鉄流山線を事例として－	岡島	野口
24	西村 猛司	富山県砺波市における農業生産法人の経営特性	宮地	野口
25	福田 亮介	長良川水系における上・中流の群集の分類について －特にヨシノボリ類に着目して－	磯谷	長谷川
28	傳 大樹	都市河川流域の景観の歴史の変貌 －立会川と目黒川を事例に－	内田	岡島
29	渡邊 貴生	大都市圏郊外居住世帯の居住経歴に関する分析 －多摩ニュータウン永山団地居住者を事例に－	内田	宮地
第2日目：2月8日（月）				
9：30～12：05 <進行：野口>				
30	野澤 直人	バブル期以降の温泉観光地の変容と住民意識 －山梨県石和温泉を事例として－	内田	岡島
31	高水 紘	都市公園利用者の行動特性 －東京都葛飾区を事例に－	内田	岡島
34	近藤 裕樹	ご当地グルメによる地域活性化の成果と課題 －甲府鳥もつ煮でみなさまの縁をとりもつ隊の取り組みを 事例に－	宮地	内田

番号	氏名	題目	主査	副査
35	向田 優希	境川中流域におけるサギ類4種およびカワウの分布とその生息環境	磯谷	長谷川
40	石黒 敦志	石川県鳳珠郡におけるのと鉄道転換バスと地域の変容	岡島	内田
44	根本 一輝	福島県磐梯熱海温泉におけるスポーツ温泉を用いた地域活性化と宿泊施設の変化	内田	宮地
45	河村 実	多摩丘陵における住宅用地開発に伴う地形改変について －神奈川県川崎市麻生区を例に－	長谷川	磯谷
46	伊比井 陽花	東方projectコミュニティにおける聖地の二次創作と現地で行われる同人イベントについて	内田	磯谷
12:50～15:25 <進行:宮地>				
50	中村 太陽	沖縄本島における人工海岸の分布と経年変化	長谷川	磯谷
52	高橋 和人	農山村における体験交流が地域に及ぼす効果	宮地	内田
54	横溝 佳樹	都市圏におけるコミュニティバスの動向 －東京都, 神奈川県, 千葉県を事例に－	岡島	野口
55	中村 周平	土砂災害ハザードマップの再検討 －長野県南木曾町を事例に－	長谷川	磯谷
57	木村 成彰	成田空港におけるアクセスの現状と課題 －主として等時線図による分析－	岡島	内田
60	東 建志	三重県南部の丘陵における二次林の構成種	磯谷	野口
61	小川 将太	小貝川中流域の河辺草原における微地形による帰化率の違い －特に人工改変地に着目して－	磯谷	野口
62	近藤 健	千葉県野田市における風水害対応避難場所と避難経路の検討	長谷川	磯谷
15:40～17:40 <進行:内田>				
63	土田 啓博	東京都東久留米市における環境保全型農業の取組の実態とその課題	宮地	野口
86	焦 志温	都市の拡大に伴って変化する土地被覆について －中国西安を例に－	長谷川	磯谷
1	生亀 司規	夏季の高温に伴う不快指数の増加について －関東地方を例に－	野口	長谷川
12	伊東 亨起	戦後復興期における地方都市市内交通路線網の変遷	岡島	長谷川
38	金原 駿	植生面からみた中大型土壌動物	磯谷	長谷川
43	神田 雅仁	東京都の神社の分布と祭神	岡島	長谷川

第3日目：2月9日（火）

12:50～15:25 <進行:磯谷>				
84	五十嵐 舞	1970年代以降の日本における水稲作の地域性	宮地	磯谷
92	高木 祐介	千葉県沿岸部における夏季の海陸風	野口	長谷川
97	村山 佑輝	歴史的町並みの現状と比較 －旧宿場町長野県海野宿、望月宿、茂田井間の宿を事例に－	岡島	内田
4	木内 香菜子	駅前通りにおける土地利用の変化とその要因 －京成津田沼、京成船橋、勝田台を対象として－	末吉	岡島
10	柿澤 樹	都市化がもたらす墓地の変容	末吉	内田
13	遠藤 敬太	千葉県銚子市における宿泊施設の立地展開と現状	末吉	宮地
15	鈴木 貴子	地方都市における宿泊産業の新陳代謝 －静岡県沼津市を事例に－	末吉	宮地
26	小沼 大	サービス業の立地からみた県域レベルでの都市階層構造 －静岡県を事例として－	末吉	宮地

【国士館大学地理学会費の納入について】

下記に掲げる学生は、国士館大学地理学会費（4年分・12,000円）が未納となっていますので、至急支払いください。地理学教室では4年分の会費を納めていない学生については、卒業を認めておりません。いずれ払うことになりますので、早めに納入することを勧めます。会費未納者は、必ず1月末日までに郵便振替で会費を納入すること。期日内に納入しなかった者については、保護者宛てに督促状を再度送ります。

振替用紙は郵便局にありますので、「口座番号：00150-7-161762，加入者名：国士館大学地理学会」および通信欄に自分の学年と氏名を記入のうえ、所定の金額を窓口またはATMで振り込んでください（ATMでの振込のほうが手数料は安くなります）。

Web版は未掲載

重要事項！必ず読むこと！

研究室、図書館から借りだしている書籍・備品は口頭試験の前（2月初旬）までに必ず返却して下さい。

4年生で未返却の者は、卒業資格を満たしていないとみなします。